３・１１に寄せて（２０１３．３．１１）

古川高等学校長　鈴木　悟

今、古高のプール脇のポールには、弔意を表す黒い旗と国旗が風にたなびいています。

激震と大津波、放射能汚染が東北を襲った東日本大震災は、今日で発生から２年となります。死者は１５８８１人、行方不明者は２６６８人に上ります。そして、今なお３１万５０００人が仮設住宅などで避難生活を送っています。

こうしたなか、私は集会の度に、震災を風化させないようにお話をしてきました。

今日は、１４時４６分までの数分間ですが、震災に関わる思いをお話しし、みんなで亡くなられた皆さんに黙祷を捧げたいと思います。

さて、私は昨日、南三陸町の志津川の神社で「スマイルアゲインプロジェクト」の集会を持ちました。５０名の支援者が集まるなかで、古高の吹奏楽部の卒業生１０名が「ひまわり」というバンドをつくり、演奏をしてくれました。中心メンバーは、２０１１年５月に美里町でチャリティコンサートを行った古高吹奏楽部の皆さんです。また、この中には先日卒業を迎えたふたりの部員も入っています。

会場の神社の外は、海岸まで瓦礫です。よくテレビに映る４０名が亡くなった防災庁舎も暴風のなかでした。

集会のオープニング。ひまわりが演奏する「世界で一つだけの花」「栄光の架け橋」に会場の皆さんは思わず涙を流してくれました。それを感じ取ってメンバーも涙しました。

その時の感想がメールで先ほど送られてきましたので紹介します。

「今まではテレビでの映像や、新聞の写真や文字といったメディアを通しての現状しか知らなかったために、自分自身にできることはなにもないだろうと考え、ただ、津波被害にあった方々が可哀想だな、としか感じていませんでした。しかし、南三陸に初めて行って思ったのは、現状を自分の目で見て、被災者の体験をきき、またプロジェクトに参加する方々の第三者としての様々な立場のかたの話を聞き自分が今まで見ていた南三陸に対する視点が 変わったことでした。本当に、自分の気持ちを込めたものは小さい大きいに関わらず、被災者の心に届くことでボランティアとして自分にできることがあると思いました。」（Ａさん）

「会場で『来てくれてありがとう、本当に感動した』と仰ってくださり、音楽が作った一体感と喜びを感じました。この笑顔と感動の輪がさらに広く、多くの方に伝わるようこれからも活動していきたいです」（Ｂさん）

「今回初めて被災地を訪れ、今まで直接見たことのなかった南三陸にぐっとくるものがありました。私たちの演奏を通して、少しでもみなさんが笑顔になってくれれば、それが私たちの糧になります。今回、見たこと、聞いたこと、感じたことを、今後に活かしていこうと思います。一日も早く元の南三陸に戻ることを祈っています。」（Ｃさん）

私たちは、東日本大震災復興のために、自分に何ができるかを考えていると思います。そして何もできない自分をもどかしく思っている方もいるでしょう。

私たち古高生が今できること。

まず、しっかりと亡くなられた方への弔意を示すこと。

自然に対する畏敬の念と畏怖の念を忘れないこと。

今自分がしなくてはならないことを誠実に、誰にも恥じないようにすること。

文武両道に励み、いつの日か具体的に役に立つ人となることを期して精進することではないでしょうか。そんな思いを込めて、黙祷を捧げましょう。